川崎医療福祉学会誌　Vol. 22　No. 1　2012　117 − 121

資　料

医療福祉経営学科学生の東日本大震災に関する意識調査

荒谷眞由美[*1]　斎藤観之助[*1]　清水昌美[*1]　松本　定[*1]　渡辺裕一[*1]　太田英子[*1]
坂本　圭[*1]　谷光　透[*1]　筑後一郎[*1]　平田智子[*1]　柴山麻祐子[*1]　喜田泰史[*1]

1．はじめに

2011年3月11日発生の東日本大震災以降，東京経済大学や早稲田大学など，いくつかの大学において意識調査が実施されており，「日本社会と自分自身が，変化すると考える人が7割を超えている」という結果[1)]や，「ボランティアをするべきである」とか「勉学に励み今後の対策を考えられる人物になる」などと「自分なりに何かを感じ，深く考えていることが分かる回答が多くあった」という結果[2)]が報告されている．このように，医療福祉系以外の大学生にもたらされた震災による意識の変化は，医療福祉系の大学生においても例外ではなかろう．

ところで，川崎医療福祉大学医療福祉マネジメント学部医療福祉経営学科（以下，医療福祉経営学科）では，アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）として，以下の3つの特徴（資質）を持つ人材を求めている[3)]．

①やさしさ：「人のために働くことが好き」であり，医療福祉の専門職を側面からサポートすることのできる人

②好奇心：「世の中の動きが気になる」人で，国民の生活に直接かかわる医療福祉の制度に興味がある人

③創造力・行動力：「企画を立てたりマネジメントするのが好き」であり，クラスやクラブの仲間の中で，気がついたらいつの間にか企画や運営に携わっていたという人

前述のように，他大学の学生に影響を与えた震災が，上記の資質を求められる医療福祉経営学科の学生にどのような影響を与えたのか，また，医療福祉経営学科の学生が実際に上記の資質を備えているのかどうかを確認するとともに，その結果を教育内容に反映するために，東日本大震災に関する意識調査[†1)]を実施した．

2．調査方法

2．1　調査方法と実施時期

大震災の半年後である2011年度秋学期履修ガイダンス時に，調査用紙を配布し，その場で回答・回収した．

2．2　調査対象

対象は，医療福祉経営学科全学生および医療福祉経営学専攻の大学院生とした．

2．3　質問内容

質問は，回答者の属性を尋ねる4項目の質問[†2)]と意識を尋ねる24項目の質問からなっている．意識を尋ねる質問は，「震災への関心」に関する質問が9項目（質問①～⑨），「支援活動」に関する質問が3項目（質問⑩～⑫），「震災を通して感じたこと」に関する質問が12項目（質問⑬～㉔）である．また，回答レベルは「5非常にそう思う」，「4そう思う」，「3どちらとも言えない」，「2そう思わない」，「1全くそう思わない」の5段階評価とした．なお，各質問項目は，紙面の都合上省略したので，表1を参照されたい．

3．調査結果

3．1　回答者の概要

3．1．1　回答者数

回答者数は215名で，学年別に見ると，1年次生69名，2年次生48名，3年次生53名，4年次生42名，大学院生3名であり，性別で見ると，男性121名，女性90名，不明4名であった．

3．1．2　震災との関連

震災との関連は，自分自身が被災2名，家族・親類が被災6名，友人・知人が被災8名，震災との関連

*1 川崎医療福祉大学　医療福祉マネジメント学部　医療福祉経営学科
（連絡先）荒谷眞由美　〒701-0193　倉敷市松島288　川崎医療福祉大学
E-Mail：aratani@mw.kawasaki-m.ac.jp

はない198名，その他1名であった．

3．1．3　これまでの支援活動

これまでの支援活動（複数回答可）については，募金177名，募金集め6名，チャリティイベント参加3名，ボランティア参加2名，その他3名，特に何もしていない35名であった．

3．2　分析結果

3．2．1　分析対象質問項目

まず，回答レベルに1から5の得点を与え，クロス集計した結果，すべての質問項目にわたって「5非常にそう思う」，「4そう思う」といった肯定的回答が多く見られた．なお，質問項目ごとの平均値は3.21～4.53であり，質問8，9，13，14，17，18，19，20に天井効果[†3)]が見られたが，平均値からの乖離が最も大きい質問20に関しても，1.01 σ 以内に収まっているので，すべての項目を分析対象とすることにした．

次に，質問項目間の相関分析を行った．その結果，いくつかの質問項目間で強い相関が見られた．このことから，同じような内容の質問を複数行っている可能性も考えられるため，質問項目を絞り込む手段として，階層的クラスタ分析[†4)]を行った．そして，クラスタ分析の結果をもとに，質問1，2，7，17，20の5つを除いた19の質問項目を因子分析の対象とすることにした．

3．2．2　因子分析

3．2．2．1　分析の妥当性

分析手法として，因子分析を適用することの妥当性を検討するために，「Kaiser-Meyer-Olkin の標本妥当性の測度」[†5)]および「Bartlett の球面性検定」を行った．前者の値は0.887，後者の検定結果は有意確率0.1%で，今回のアンケート調査のデータを用いた因子分析は統計的に有意であると判断してよいと解釈した．

3．2．2．2　因子数

固有値および固有値寄与率，さらに因子のスクリープロットをもとに，因子数4を採用することにした[†6)]．

3．2．2．3　因子分析結果

分析は，主因子法（バリマックス回転）で行った．結果は，表1に示した．

①第1因子

表1を見ると，第1因子について負荷量の高い項目は，7項目であり，これらは，「奉仕の精神」と捉えることができる．

②第2因子

第2因子について負荷量の高い項目は，5項目であり，これらは，「有限資源への配慮」と捉えることができる．

表1　因子分析結果

	因子1	因子2	因子3	因子4	共通性
Q12 何らかの形のボランティアに参加したい	**.699**	.129	.094	.172	.554
Q10 募金活動をしたい	**.689**	.237	.155	−.033	.557
Q11 現地ボランティアに参加したい	**.688**	.030	−.105	.265	.555
Q15 人の役に立ちたいと感じるようになった	**.655**	.369	.060	.239	.626
Q13 人との絆の大切さを感じた	**.636**	.361	.066	.190	.575
Q 3 復興関連に関心	**.494**	.439	.362	.041	.570
Q 8 津波被害に関心	**.490**	.223	.338	.164	.430
Q16 お金の大切さを感じた	.101	**.736**	.013	.157	.577
Q19 情報の大切さを感じた	.465	**.655**	.247	−.112	.719
Q18 時間の大切さを感じた	.401	**.635**	.138	.221	.633
Q21 エネルギーの大切さを感じた	.210	**.470**	.353	.319	.491
Q14 家族を大切に思うようになった	.462	**.469**	.159	.233	.513
Q 4 原発問題に関心	.011	−.003	**.723**	.093	.532
Q 5 エネルギー問題に関心	.033	.170	**.654**	.193	.495
Q 6 風評被害に関心	.321	−.061	**.607**	.091	.484
Q 9 政府の対応に関心	−.024	.242	**.569**	−.088	.390
Q22 自分の価値観や生き方が変わった	.469	.189	.071	**.502**	.513
Q24 医療福祉経営を学び社会の役に立ちたい	.429	.178	.223	**.478**	.494
Q23 マネジメントやコーディネートの必要性を感じた	.246	.278	.414	**.457**	.518
因子寄与	3.968	2.634	2.397	1.216	10.215
寄与率(%)	20.883	13.862	12.618	6.402	53.765

③第3因子

第3因子について負荷量の高い項目は，4項目であり，これらは，「政策問題への関心」と捉えることができる．

④第4因子

第4因子について負荷量の高い項目は，3項目であり，これらは，「価値観の変容」と捉えることができる．

3．2．2．4　因子得点によるサブグループ間の比較

フェイスシートで質問した「学年」，「性別」，「震災との関連」，「支援活動の有無」によって，因子得点に差があるかどうかを見るために，因子得点の平均値の比較を行った．

①学年別比較

学年別因子得点の平均値をもとに，一元配置の分散分析を行ったが，学年による差は見られなかった．結果は，表2に示している．

②男女別比較

男女間で因子得点に差があるかどうかを見るために，独立サンプルのｔ検定を行った．結果は表3に示したが，第1因子「奉仕の精神」は，女子学生の方が明らかに高い因子得点を持っていることが分かる．また，第3因子「政策問題への関心」については，男子学生の方が高い因子得点を持っていることが分かる．

③震災との関連の有無による比較

震災との関連の有無によって，因子得点に差があるかどうかを見るために，独立サンプルのｔ検定を行ったが，因子得点に差は見られなかった．

④支援経験の有無による比較

何らかの支援活動を行った経験のある学生とない学生との間で，因子得点に差があるかどうかを見るために，独立サンプルのｔ検定を行った．結果は表4に示したが，第1因子「奉仕の精神」のについては，支援を行った経験のある学生の方が，明らかに高い因子得点を持っていることが分かる．また，第2因子「有限資源への配慮」，および第3因子「政策問題への関心」についても，支援を行った経験のある学生の方が，高い因子得点を持つ傾向にあることが窺える．

表２　学年別因子得点の平均値

		1年次生 (n=67)	2年次生 (n=47)	3年次生 (n=49)	4年次生 (n=41)	大学院生 (n=3)
第1因子	奉仕の精神	−.0173	−.0655	.1711	−.0653	−.4888
第2因子	有限資源への配慮	.0352	−.2769	.0329	.2241	−.0483
第3因子	政策問題への関心	−.1628	.1863	−.0721	.0728	.8989
第4因子	価値観の変容	.1417	−.0479	.0198	−.1525	−.6551

表３　男女別に見た因子得点の平均値の差

		男子学生 (n=116)	女子学生 (n=87)	独立サンプルのｔ検定	
				ｔ値	有意確率（両側）
第1因子	奉仕の精神	−.172	.224	−3.311**	.001
第2因子	有限資源への配慮	−.044	.089	−1.130	.260
第3因子	政策問題への関心	.111	−.148	2.066*	.040
第4因子	価値観の変容	.002	−.030	.301	.764

** 有意水準0.1%で有意差あり
*　有意水準5%で有意差あり

表４　支援経験の有無による因子得点の平均値の差

		支援経験あり (n=172)	支援経験なし (n=35)	独立サンプルのｔ検定	
				ｔ値	有意確率（両側）
第1因子	奉仕の精神	.152	−.749	4.051**	.000
第2因子	有限資源への配慮	.068	−.336	1.711+	.095
第3因子	政策問題への関心	.052	−.256	1.891+	.060
第4因子	価値観の変容	.038	−.187	1.569	.118

** 有意水準0.1%で有意差あり
+　有意水準10%で有意差あり

4．おわりに

アンケート調査の結果抽出することができた因子は，いずれも医療福祉経営に関連するものであると考えられる．加えて，医療福祉経営学科では，前述のようにアドミッション・ポリシーとして，①「やさしさ」，②「好奇心」，③「創造力・行動力」の3つの特徴（資質）を持つ人材を求めている．そこで，これらの特徴と今回のアンケートから抽出された因子の関連を見ると，①の「やさしさ」については，第1因子の「奉仕の精神」が関連していると考えられる．次に，②の「好奇心」については，第3因子の「政策問題への関心」および第1因子との関連が考えられる．最後に，③の「創造力・行動力」については，第1因子および第2因子の「有限資源への配慮」，さらに，第4因子の「価値観の変容」との関連が窺える．

また，女子学生と男子学生とでは，「奉仕の精神」と「政策問題への関心」という面で違いが見られた．さらに，何らかの支援活動を行った経験のある学生は，「奉仕の精神」を明らかに強く持っており，「有限資源への配慮」および「政策問題への関心」についても，因子得点が高い傾向にあることが窺えた．これらの結果は，女子学生に対しては医療福祉政策について関心を持てるよう，具体的な事例等を分かりやすく伝える工夫の必要性を，さらに，男子学生や何らかの支援活動を行ったことのない学生に対しては，奉仕の精神を育む必要性を示していると考えられる．

そこで，今回の調査結果も踏まえたうえで，本学科の1年次から2年次にかけて履修することになっている「基礎ゼミⅠ」から「基礎ゼミⅣ」の内容を，2012年度新入生から見直すことになった．特に，これから医療福祉経営を学ぼうとする1年次生に対しては，アドミッション・ポリシーや医療福祉分野の基盤となる考え方・価値観を知るために，

①宿泊研修や旭川荘研修と基礎ゼミをリンクさせながら，医療福祉の原点と本学の理念を理解できるようにし，

②教員一人ひとりが「私と医療福祉」について語り，

③複数のゲストスピーカーから「岡山の医療福祉の源流」を学ぶ，

という一連の流れを持ったプログラム[4]を組み込んだ．加えて，基礎ゼミ担当アドバイザーや卒論ゼミ担当教員が，勉学と生活の両面から学生に細やかな指導をすることにより，学科が求める人物像に学生を近づけ，医療福祉分野で社会に役立つ人材を育成していく必要があろう．

付　記

本報告の詳細は，医療福祉経営学科オリジナルホームページで公開予定である．また，アンケート調査にご協力をいただいた川崎医療福祉大学医療福祉マネジメント学部医療福祉経営学科および医療福祉マネジメント学研究科医療福祉経営学専攻の学生諸君に感謝の意を表したい．

注

†1）本調査は，「医療福祉経営学科倫理委員会規程」に則って審査・承認されたものである．

†2）社会現象を問う調査では，一般的に回答項目に年齢を加えるが，医療福祉経営学科においては学年を問うことで学生の年齢を把握できること，また，年齢よりも調査時点で医療福祉に関するどのような科目を学んでいるのかという点が重要であるとの考えから，本調査の項目としては、年齢ではなく学年を問うこととした．

†3）平均値＋標準偏差が「とりうる最高値以上」となるような，得点分布が高い方に歪んでいる場合を言う．

†4）クラスタ化の方法はグループ間平均連結法，測定方法は平方ユークリッド距離で，値の標準化は行わなかった．

†5）KMOの測定は0から1の範囲を取るが，0.8以上0.9未満の場合は，因子分析の適用の是非を判定する基準として，meritorious（価値がある）とされている．

†6）一般的に因子数を決める条件としては，①因子の固有値寄与率の累積値が一定水準以上をもって決定する，②固有値が1以上をもって決定する，③固有値の変化（因子のスクリープロット）が緩やかになる1つ手前で決定する，の3点が挙げられる．

文　　献

1）東京経済大学：新入生は3.11世代　～新入生を対象に「東日本大震災」に関するアンケートを実施．大学ニュース一覧，http://www.tku.ac.jp/news/007909.html．2011.
2）早稲田大学学生部：「東日本大震災に関する意識調査」集計結果報告．早稲田ウィークリー，号外，6，2011.
3）医療福祉経営学科：学科の特徴．川崎医療福祉大学　医療福祉マネジメント学部　医療福祉経営学科ホームページ，http://www.kawasaki-m.ac.jp/mw/keiei/concept.htm．2012.
4）医療福祉経営学科：基礎ゼミのねらい．基礎ゼミの手引き，3－4，2012.

（平成24年6月14日受理）

Student Attitudes toward the Great East Japan Earthquake –In the Department of Health and Welfare Services Management–

Mayumi ARATANI, Kannosuke SAITO, Masami SHIMIZU, Sadamu MATSUMOTO, Yuichi WATANABE, Eiko OTA, Kei SAKAMOTO, Toru TANIMITSU, Ichiro CHIKUGO, Tomoko HIRATA, Mayuko SHIBAYAMA and Yasufumi KITA

（Accepted Jun. 14, 2012）

Key words：student attitudes, the Great East Japan Earthquake, factor analysis

Correspondence to：Mayumi ARATANI
Department of Health and Welfare Services Management
Faculty of Health and Welfare Services Administration
Kawasaki University of Medical Welfare
Kurashiki, 701-0193, Japan
E-Mail：aratani@mw.kawasaki-m.ac.jp
（Kawasaki Medical Welfare Journal Vol.22, No.1, 2012 117－121）